

(1)



祖父母と先生の会主催「餅つき体験会」の様子
(東神楽町立東神楽小学校)

No. 101 (平成21年3月1日)

おもな内容

	ページ
随想	1
教育講演会の概要	2～3
研究室では	4～5
平成21年度 研修講座開催一覧	
お知らせ、お願い、案内	6～7
研修講座寸描	8～12
心に残る授業 その57	12

随想

夢を求めて

楽しい授業づくりを

上川教育研修センター組合教育委員会

委員 千葉

訓



教育基本法、関連三法の改定は教育界に
変革の波として押し寄せている。いつの
時代でもそうなのだろうが、「生きる
力」の育成や教師の質の向上は緊急の課
題であろう。

教育に関係する諸組織が連携を強め、
今日的課題に取り組んでいく必要性は勿
論だが、教師一人ひとりが社会の流れに
対応できる資質を高める努力もまた重要
である。

研修センターの事業は、多くの課題を
解決するため教師のニーズや地域の教育
力向上に加担できる講座を設定し、新し
い方向に向かって進んでいることに敬意
を表したい。

しかし教育現場は多くの講座に参加で
きる状況にないほど混雑化していて、な
かなか自己の研修にならない苦しみもあ
ることは判断できる。

新しい教育課程の検討・編成は子ども
の「確かな学力」に直接連動するもので
あり、大きな課題でもある。

長年の経験から考えて、やはり教師は
「わかって楽しい」授業づくりこそ求め
られているのではないか。近年の子ども
の姿を見たり聞いたりした中で、特に気
になるのは授業づくりと学習の習慣性が
考えられる。毎日、子どもたちは楽しい

授業の中で育っているのか。またそのた
めに教師は楽しい授業づくりに精進でき
ているのか。いささか心配な面もある。

授業づくりのポイントには、教師と子ど
もの人間関係に寄与するところが多く、
日常の子どもとの触れ合いが授業推進の
大きな力になっている。

また教育現場における教師相互の組織
としてのコミュニケーションも重要であ
ると考える。その意味では良い授業をつ
くるためには、教師相互の練り合いが大
切なのだろうと思う。

多くの教師たちが教育の今日的課題に
正対し、だからこんな研修を推進したい
という要望が研修センターの講座に表出
されることが最も大切であると考える。

新しい時代に対応し、新しい授業づく
りに精進することが強く求められている
わけで、それを支援するものとして教育
研究会があったり、研修センターがある
わけで、自ら時間を造り出し、多くの仲
間と研鑽しあう姿が教育の質を高めてい
くことになることを確信している。

新年度に向かい、各学校の研修体制を
もう一度点検し、今日的課題に正面から
対応できる組織を構築するべきであらう
と考える。

学校祭で「日本の芸能」琴の

演奏を発表する三年生

(旭川市立東光中学校)



センター日誌

11月19日	研修事業拡大会議
12月16日	冬季拡大研究室会議
1月5日～9日	
1月7日	研究室冬季集中研
	冬季所員合同研修会
	研究協力校打ち合わせ
1月21日	センター運営協議会
1月22日	センター組合教育委員会会議
2月10日	センター組合定例会議
2月17日	センター組合教育委員会会議
3月1日	センター研究発表会
3月27日	平成21年度研修講座開催要項 平成20年度研究紀要34号発送

上川教育研修センター 教育講演会

新しい教育課程の実施に向けて

～ 展望と課題 ～

千葉大学 教授 天 笠 茂



一、学習指導要領改訂の移行措置期間

(1) 本格実施について

新学習指導要領の完全実施は、幼稚園で二〇〇九（平成二十一年）年、小学校で二〇一一（平成二十三年）年、中学校で二〇一二（平成二十四）年となつていく。このたびの改訂に関わる移行措置期間は、「加える移行措置期間」と押さえ

るべきである。例えば、中学校で選択教科の削減、総合的な学習の時間の縮減はあるものの、平成二十一年度は〇〇を扱う、平成二十二年度は〇〇を扱うことが明記されていて、それを踏まえていかなないと完全実施がなされないようになっていく。まさしく「加える移行措置期間」である。この三年間の移行措置期間を各学校では、具体的にどのようなプランで進めていくかを考えていく必要がある。

(2) 先行実施について

中学校の本格実施は平成二十四年なので、当分の間、移行措置期間となるが、ぜひぶん先の完全実施ながら、可能なものは限りなく先行実施せよということも明記されていて、そんな中、各学校ではどのような教育課程を来年度から準備しているのが問題である。

来年入学した生徒は、三年間移行措置期間を過ごすことになるが、各学校が、本格実施までの「過渡期的措置の三年間」という押さえをしたとしていたら、保護者の立場や生徒の立場としては、どういう受け止めをするのか？そのあたりのことを慎重に考えて、学校の組織としての

意志決定をし、三年間の方針を明確にして教育プランを立てる必要がある。実質的には、この半年が移行措置期間で、来年四月からは、限りなく本格実施に近い状況が生まれる。人的な問題や教科書の問題はあるものの、体制づくりを進めていく必要が、この半年にかかっていると云ってもよい。

二、学習指導要領改訂をめぐって

(1) 改訂内容の具体例について

例えば、小学校算数では「円周率は三・一四を用いる」「ひし形及び台形の面積の求め方を考える」（復活した内容）「角柱や円柱について知ること」など、現行学習指導要領では六年生の内容が、来年は五年生で指導することとなっている。各教科でこういった変更点や新しく加わった点について、学校現場では早急に共有化を図っていく必要がある。

また「三角形の三つの角の大きさの和が百八十度になることを帰納的に考え、説明する活動」「四角形の四つの角の大きさの和が三百六十度になることを演繹的に考え、説明する活動」など「説明する活動」が入ってきている。これらは今回の学習指導要領の改訂を象徴する言葉であり、「活用する力」「言語力」とつながっている。

算数・数学科では、小学校一年生から中学校三年生までの学習指導要領の中に算数的活動・数学的活動が盛り込まれているが、すべての教科に〇〇的活動の文句があってもよかったと思っている。こ

のあたりが各学校の教育課程編成上のポイントになる。

(2) 総則について

総則では学習指導要領の全体的なコンセプトや理念が掲げられているが、学校現場では、一般的に教科の内容の改訂から学習指導要領全体の改訂へという入り方をしていくことが多い。なぜその教科がそのように変わるのか？ということを生方は考えながら指導を進めていってほしい。そのためには、学校全体で総則に関する研修を行い、全体的なもの各教科のつながりについて押さえる必要がある。

三、学習指導要領改訂のポイント

(1) 生きる力という理念の共有

いろいろな見方があるが、新学習指導要領は現行の学習指導要領の継承型であるところとらえている。「生きる力は変わりません。学習指導要領は変わりますが」という言葉に象徴されるが、新学習指導要領では今まで以上に「生きる力」をすべての教科において育てていこうとする考えが盛り込まれている。

平成八・九年に提起されたとき「生きる力」は茫洋として包括的であった。その後、PISA A型読解力やキーコンピテンシーなど、学力が構造的に捉えられた。その経過が今回押さえるべき点である。今一度、中教審の一月の答申文を確認してほしい。

(3)

(2)日本の子ども像と学力
日本の子供の学力をどう押さえたかという観点では、A問題とB問題の落差に注目すべきである。A問題はまあまあだが、B問題は今ひとつの学校が多いのではないだろうか。今一度全体の子どもの学力と、自分の学校の子どもの学力の比較・分析が必要である。

(3)学力の三要素

学力の重要な要素として、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、③学習意欲の三つが上げられるが、この中で一番大きな問題は「学習意欲」である。学力問題の中で「学習意欲」はどんな位置づけをしているか? 「学力」は「見える学力はとらえられるのか?」という考え方もあるが、日本の子どもたちの現状からすると、学力の問題の中に学習意欲を位置づけることはきわめて実践的なことである。

(4)学習意欲

各学校で学習意欲はどのようなアプローチで育てていくのかを考える必要がある。授業改善であることは間違いないが、なかなかそれに迫ることができない現状もある。学習意欲は家庭生活や地域生活の有り様とつながっていて、生徒指導上の問題もからんでくる。各学校の学力の構造図が、どのようになっていっているのか検証することが必要である。

(5)活用する力(授業の工夫)

知識・技能を活用することと言語力の充実、運動しながら育てていかなければいけない。このことは校内研修のテーマにしやすいため、「どう授業に落としつけていけばいいのだろうか?」を考えていくことを各学校で行ってほしい。

そのために、それぞれの教科において「習得」「活用」「探求」の場面を作り出していくことが重要である。まずは、「習得」「活用」が各教科の守備範囲、「探求」が総合の守備範囲ということを押さえて、伝えた知識・技能を使う場面を作り出していく授業展開しなければならぬ。一時間の授業の中で、「活用」の場面を作っていくことと、さらに単元構成においても「活用」の場面を取り入れていくことが求められている。

(6)総合的な学習の時間

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする。ことから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。

教科と一体となつて子どもたちの力を伸ばすものであり、ねらいや育てたい力を明確にすることが求められる。各学校においては、今一度、教科と総合のつながりという観点で、総合的な時間の学習の見直しを図ってほしい。

学校現場での時間の運用については、

長年の慣行によって進められることが多い、総合といなながらも、小学校では外国語科活動を行っていることがやむを得ないことというような現状も、その世界の中では理解し合ったことではあるかもしれないが、昨今の状況を考えるとそういったことは、極めて慎重に行っていかなければいけない。表示と中身の違いについては世の中の見目が非難にさらされることもある。

(7)授業時数の取り扱い

例えば、中学校の数学の時間は、百四十時間となつており、現在は百五時間である。時数が増加した理由は、単に内容が増えたからということではなく、小中の円滑な接続や「活用」の時間を確保するという視点を忘れてはならない。

ただ、数年後心配されることとして、内容が増えた部分の対応の処理に追われ、実際には活用する時間が確保されないという問題もあるであろう。そこで大切になってくるのが、単元構成や授業過程で活用場面を確保していくことである。各学校では、一時間の授業や単元構成の設計力が求められている。教科書、指導書に寄り添うだけでなく単元開発をしていってほしい。単元構成は、専門性を持った先生方でなければできないことであり、町や地域のネットワークで交流しながら進めていくことが重要である。

(8)カリキュラムマネジメント

一人一人の教師の頑張りをつなげて、学校全体として教育効果を高めていくこ

とは、今の教育界の大きな課題といつてよいだろう。

新しい学習指導要領は、教科を含んだ教育活動全体の中で、教育課程を核にして先生方がつながっていくという学校づくりが目指す方向を示している。

四、地域をあげて

教師だけでなく地域・保護者の方々のことも意識して、一緒に情報を共有することが大切である。学習指導要領の改訂についても先生方が、地域や保護者の方々に説明していく義務もある。説明しつつ情報共有し、新しい地域づくりのきっかけにしてほしい。

指導要領の改訂が、「学校が動く」一つの機会にもしてほしいと願う。



研究室だより

今、研究室では

第十四次研究

研究主題「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方」

第一年次 知識・技能の習得と活用を図る学習活動の工夫

上川教育研修センターでは、研究主題を「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方」と設定し、理論研究と実践検証を行ってきました。本研究では、児童生徒の実態把握と指導事項の明確化、単元（題材）構成や授業展開の工夫により、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を高めることを目指して研究を推進してきました。その結果、本研究の成果と課題を次のように明らかにすることができました。

成果

- 1 単元（題材）のねらいと児童生徒の実態を踏まえ、育てたい力と主に知識・技能にかかわる指導事項を明確にして、それらの関連を図った指導計画を作成したり、授業展開や指導方法の改善を図ったりした実践を複数行うことができた。
2 「習得・活用A」、「活用B」、「探究」の3つ過程のおさえを明らかにし、特に「習得・活用A」と「活用B」の2つの過程のつながりを明確にすることができた。
3 「習得・活用A」の過程について、1単位時間の授業における基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習活動の在り方を検証し、習得を図る学習活動と活用を図る学習活動が一体となって進む場合（「習得しつつ活用」と、まず習得してから次に活用するといった段階的に進む場合（「習得してから活用」）があり、その考えを実践に生かすことができた。
4 「活用B」の過程について、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、主体的に問題解決を図ることができる学習活動の工夫として、6つの視点を示したことにより、活用を図る学習活動の在り方について基本のおさえを明確にすることができた。
5 本年度の研究理論に沿った授業実践として、研究員による実践を5つ、研究協力校による実践を5つ行い、それぞれに成果と課題を見いだすことができた。

課題

- 1 「習得・活用A」の過程において、2つの場合（「習得しつつ活用」と「習得してから活用」）の基本のおさを示し、教科の特性や当該単元（題材）のねらい、児童生徒の実態などを踏まえ、具体的な効果や有効性をまとめる必要がある。
2 1単位時間の授業の目標を踏まえた「活用A」の在り方、単元（題材）のねらいを踏まえた「活用B」の在り方をさらに検証することが重要である。特に、「活用B」については多様な学習活動が考えられるため、複数の実践を通して、学習活動と育てたい力の関係を分類・整理することが必要である。
3 「習得・活用A」、「活用B」の過程から、総合的な学習の時間を中心として行われる「探究」の過程につながる実践を行い、その在り方を考える必要がある。

所員の授業実践

小学二年 国語「ニヤーン」

研究員 長瀬 剛仁

読むことの「知識・技能」を習得し、お互いの考えを伝え合う交流活動を通して「思考力」を高める学習

一「習得・活用A」の過程
時間の経過や出来事の順序を手がかりに挿絵と関連付けて物語を読んだり、会話文に言葉や動作を補うことや動作化することや想像を広げながら段落ごとに読み進めたりすることや、物語の大体の展開をとらえることや、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることを身に付けることができるようにした。

二「活用B」の過程

絵本「おまえうまそうだな」を教材として用い、主人公であるティノノサルをイメージできるような挿絵と関連付けて想像できるようにした。物語の展開を正しく読み取り、登場人物の気持ちを会話文や行動を表す文から読み取る力が活用するとともに、主人公の気持ちや変化した理由を伝え合う交流活動を通して、「思考力」を高める学習を展開した。

三 本実践の結果

「習得・活用A」の過程では、物語を読むための基礎的・基本的な知識・技能を十分に身に付けることができた。「活用B」の過程では、これらを活用して物語の展開を正しく、登場人物の気持ちを叙述にのり、読み取り、互いの考えを交流することを通して、気持ちを伝えることができるようになった。また、「思考力」を高めることができた。



小学四年 国語「アーチ橋の仕組み」

研究員 善方 幸

読むことの「知識・技能」を習得し、集団の考えを高めていく交流活動を通して「思考力」を高める学習

一「習得・活用A」の過程
指示語や接続語に着目したり、中心となる語や文を見つけて要点をまとめ整理したりしながら、橋にアーチの形が使われている理由を示す実験の手順やアーチ橋を造る方法を読み取ることに伴い、文と文のつながりに気を付けて読むことや、文章から中心となる語や文を見つけて要点を読み取ることができるようになった。

二「活用B」の過程

委員会の企画について説明した自作の教材文を使い、中心となる語や文を見つけて要点をとらえること、指示語や接続語を文の意味のつながりに果たす役割を理解して読むこと、段落ごとに文章の要点をつかんで読むこと、段落ごとに文章の要点をつかんで読むことを活用するとともに、文章の内容を分かりやすくまとめる、よりよい文を考える交流活動を通して、「思考力」を高める学習を展開した。

三 本実践の結果

「習得・活用A」の過程では、説明文を読むための基礎的・基本的な知識・技能を十分に身に付けることができた。「活用B」の過程では、これらを活用して、ほとんどの児童が、文章の要点をとらえて読み、その内容を要約して分かりやすく説明する文を交流することを通して「思考力」を高めることができた。



(5)

研究協力校の授業実践

旭川市立春光小学校二年 音楽
「わくわくリズム なかよしリズム」

「習得・活用A」の過程では、2拍子や3拍子のリズムに合わせて歌う活動を通して、表現する楽しさに気づき、歌唱表現リズム打ちやパンブーダンスを組み合わせて歌うことができるようになった。

「習得・活用B」の過程では、3拍子の楽曲を思いをもつて歌った。他の児童が動かす竹のリズムに合わせリズム打ちを繰り返す活動を行った。ここではリズムの違いや表現の面白さに気づくことやパンブーダンスのリズムが生み出すやさや面白さを感じ取り、音楽を動かしながら思いをもつて歌うことを活用し、自分の思いを歌や体で表現する活動を通して「表現力」を高める学習

「習得・活用A」の過程では、箱や容器を用いて自分の組み立てたいものを作り、使った形の特徴や機能、それぞれの形の構成要素に気づくことができるようになった。また、立体図形から面の形を写し取り平面図形について理解することができるようにした。



旭川市立東五条小学校一年 算数
「かたちあそび」

「習得・活用A」の過程では、箱や容器を用いて自分の組み立てたいものを作り、使った形の特徴や機能、それぞれの形の構成要素に気づくことができるようになった。また、立体図形から面の形を写し取り平面図形について理解することができるようにした。

「習得・活用B」の過程では、平面図形を組み合わせて形を構成していく活動を行った。ここでは、図形の特徴や機能を生かしているいろいろなものを作ろうとすること、方向や位置を示す言葉を用いて形を表現すること、さまざまな平面図形の組み合わせで新たな形を表すことを活用し、本格的な図形に親しむ活動を通して「表現力」を高めることができた。



旭川市立永山小学校二年 国語
「名前を見てちょうだい」

「習得・活用A」の過程では、登場人物の様子を表す擬態語や会話文などをもとに段落ごとに登場人物の気持ちを読み取る活動を通して、物語の大体をとらえることや、登場人物の様子を対比して読むこと、登場人物の気持ちや想像することを通して、題材の終わりに位置付けた登場人物の気持ちを生かし、グループで選んだ場面を演じる活動を行った。ここでは物語の順序に沿って大体の展開をとらえることや登場人物の様子を対比して読むこと、登場人物の気持ちや想像して読むことを活用

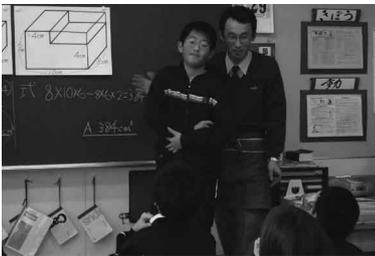
「習得・活用B」の過程では、読み取った内容や想像した気持ちを音読や動作を通して「思考力」を高めることができた。



旭川市立永山西小学校六年 算数
「体積のはかり方と表し方」

「習得・活用A」の過程では、1cmの積み木の個数の求め方を考える活動を通して、直方体と立方体の体積の公式を導き出すことができるようにした。また、直方体の高さを変えた時の体積の変化を考えた活動を通して、直方体の高さや体積の関係について理解することができるようにした。

「習得・活用B」の過程では、三角柱の体積を求める活動を行った。ここでは既習の公式を用いて計算することや直方体の高さや体積の関係について理解したことなどを活用して、体積の求め方を考えるとともに、自分の考えや他の児童の考えを比較する活動を通して「思考力」を高めることができた。



旭川市立北星中学校一年 英語
「Unit 8 はじめての力ナダ旅行」

「習得・活用A」の過程では、疑問詞(Where, whose)や人称代名詞(目的格)の用法を理解し、口頭による練習やペアまたはグループで対話する言語活動を通して、それらの用法を身に付けることができるようにした。

「習得・活用B」の過程では、疑問詞(Where, whose)を含む疑問文を用いて、身の回りにある物について尋ねたり答えたりするなど対話による言語活動を行った。ここでは疑問詞(Where, whose)を含む疑問文を用いて、物がある場所を尋ねることや物の持ち主を尋ねること、人称代名詞(目的格)の意味や用法について理解したことを活用し、生徒同士で対話する言語活動を通して「表現力」を高めることができた。



次年度の研究内容

第十四次研究
研究主題「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方」
第二年度
「習得した知識・技能の総合的な働きを促す探究活動とのつながり」

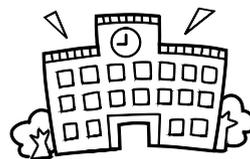
第13次3か年計画
＝第1年次＝

センター開催講座

番号	講座名	期日	予定数	概要	授業
⑳	学校経営Ⅲ	7/31 7/30	10	教頭職二年目以降で、本講座未受講の小・中学校教頭が対象、学校運営上の諸問題と解決方法の研修	
⑲	技術・家庭科実技	7/29	10	植物栽培を通して、児童生徒が創意工夫できる魅力的な教材の開発及び実技研修	
⑱	(外国語) 英語指導科	②10/7 ①7/29	20	理科教育における指導上の課題を明確にし、物理的・科学的な事物・現象に対する科学的な見方や考え方の育成にかかわる研修 (②で授業参観)	中
⑱	理科指導	②10/7 ①7/28	20	理科教育における指導上の課題を明確にし、物理的・科学的な事物・現象に対する科学的な見方や考え方の育成にかかわる研修 (②で授業参観)	中小
⑱	算数・数学科指導	②10/7 ①7/28	20	算数的活動・数学的活動の楽しさを実感できる授業づくりに重点を置き、子どもが考えることの楽しさを味わうことのできる算数・数学科指導の研修 (②で授業参観)	中小
⑱	社会科指導	②9/7 ①7/30	20	社会科教育における指導上の課題を明確にし、社会的事象力を育てる指導の在り方の研修 (②で授業参観)	中小
⑱	国語科指導	②9/7 ①7/30	20	「読むこと」における指導に重点を置き、確かな言語能力を培う指導の工夫と改善にかかわる研修 (②で授業参観)	中小
⑱	生活科指導	7/8	15	生活科の目標や内容及び指導と評価の在り方にかかわる研修	小
⑱	複式教育	7/21	15	一人一人の学びを高める複式教育の在り方にかかわる研修	小
⑱	学校経営Ⅱ	6/25 6/24	該当者	平成20年6月25日以降昇任の小・中学校教頭が対象、学校運営上の諸問題と解決方法の研修	
⑱	ミニ二道研A	6/23	30	道研主催による情報モラル及び授業技術改善と教育相談をコース別に行う研修	
⑱	小学校外国語活動	6/17	15	小学校における楽しく効果的な外国語活動実践の交流及び指導内容・方法についての研修	小
⑱	特別活動	6/11	15	特別活動の目標・内容及び指導方法等について研修を深め、自主的・実践的な態度を幅広く指導の在り方の研修	小
⑱	総合的な学習の時間	6/9	15	校種間の学びの連続性及び各教科、学年間の連携を視野に入れた「総合的な学習の時間」の在り方の研修	小
⑱	(読書) 学校図書活動	6/4 6/3	15	児童生徒の読書習慣の確立に重点を置き、学びを支え豊かな人間形成を図る読書活動に向けた研修 (②で授業参観)	小
⑱	特別支援教育	6/4 6/3	20	障害等のある児童生徒の能力や特性に応じた指導内容や指導方法及び評価について研修を深め、指導力の向上を図るとともに、望ましい学級経営の在り方についての研修	中小
⑱	(旭山動物園) 動物たちと行動展示	5/27	10	旭山動物園の特色ある経営についての研修	
⑱	学校経営Ⅰ	5/28 5/27	該当者	平成20年5月30日以降採用の小・中学校長が対象、学校経営の在り方や諸問題についての研修	
⑱	学級経営	②9/5 ①5/21	15	子ども一人一人を生かした学級経営の在り方の研修 (②で授業参観)	中小
⑱	学校事務実務	5/2019	30	学校事務実務の基本的な要領及び学校事務における今日的課題についての研修	授業

平成21年度「研修講座開催要項」

平成21年度の「研修講座開催要項」を4月初めにお届けいたします。授業研究や演習などの体験的な研修を多く取り入れるとともに、教科等の講座につきましては、教育課程編成のコースも設定いたしました。さらに、学校・地域へ赴く出前講座として「特別支援教育」「生徒指導」「小学校外国語活動」「ミニ講演会」「生物の飼育・栽培」「パソコン講座」を設定いたしました。多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。



平成21年度

上川教育研修セ

G	F	E	D	C	B	A	③4	③3	③2	③1	③0	29	28	27	26	25	24	23	22	21
パ ソ コ ン 実 技 講 座 （学校で役立つ動画編集講座）	パ ソ コ ン 実 技 講 座 （学校で役立つLAN講座）	パ ソ コ ン 実 技 講 座 （学校で役立つプレゼンテーション活用講座）	パ ソ コ ン 実 技 講 座 （学校で役立つWEB制作講座）	パ ソ コ ン 実 技 講 座 （学校で役立つ画像処理講座）	パ ソ コ ン 実 技 講 座 （校務のための表計算活用講座）	パ ソ コ ン 実 技 講 座 （校務のための表計算入門講座）	センター研究発表会	ミニ道研B	保健安全指導	社会教育	校内研修	道徳教育	生徒指導	教育講演会	書写実技	音楽科実技	図工・美術科実技	国際理解教育	書に親しもう	体育科実技
②① 11/10 6/30	②① 11/11 27/20	②① 9/4 8/28	6/19	③②① 10/8 6/16 15/12	②① 11/10 13/2	②① 7/31 6/5	2/23	1/6	10/8 7	9/17 16	9/9	②① 10/9 14/3	②① 10/9 14/3	9/1	8/27	8/26	8/26	8/7	8/3	7/30
各6	各6	各6	各6	各6	各6	各6	30	30	15	20	20	15	15	80	15	20	15	15	10	15
動画編集ソフトの基本操作を習得するとともに、編集した動画の活用方法の在り方についての研修	ネットワークの基礎知識及びサーバーの活用方法についての研修	授業や各種発表会で効果的に活用するプレゼンテーションソフトの活用についての研修	ホームページの作成方法や管理、個人情報取り扱いや情報発信の在り方についての研修	視覚に訴える教材や各種通信、掲示物の作成や画像処理についての研修	成績や会計をはじめ、さまざまな校務に応じた表計算ソフトの便利な活用についての研修	成績や会計をはじめ、さまざまな校務に応じた表計算ソフトの基本についての研修	「確かな学力を高める学習指導」に関する第十四次三か年計画二・三年次の研究発表	道研主催によるカリキュラムマネジメント及び校内研修と教育相談をコース別に行う研修	「学校における食に関する指導の在り方」	地域の教育力向上のため学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくりについての研修	「研修体制の構築と研究計画の立案」に関する研修	体験活動を生かした心に響く道徳教育の在り方に関する研修 (②で授業参観)	生徒指導の機能を生かした指導の在り方や諸課題に関する研修 (②で授業参観)	新学習指導要領における小学校外国語活動・中学校外国語(英語)の展開	書写指導の現状と課題を明確にし、日常に生きて働く書写力を育てる指導についての研修	歌唱表現の工夫と指導方法の工夫に重点を置いた実技研修	造形遊びに重点を置いた、図画工作・美術科における指導方法の研修	国際理解教育の意義と教師の役割に重点を置いた国際理解教育の指導にかかわる研修	自分なりの表現で書に親しむ文化講座 (半日日程 午前)	基本の運動と体づくり運動、ボール運動にかかわる指導方法及び実技研修
									小		小	中小	中小		中	中				



研究紀要第34号

「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方」をテーマに、第14次3か年計画(第1年次)の研究の成果を「研究紀要」34号として3月末にお届けいたします。校内研修、個人研修などにご活用下さい。

お知らせ

平成21年度第1回講師打合せについて
「講師委嘱状交付式並びに講座内容研究協議会」

日時 平成21年4月15日(水)
午後2時30分～(受付2時)

場所 上川教育研修センター
※「旅費請求書」をご持参下さい



パネルディスカッションをとおして話し合いのルールについて学習している様子 (春光小・明星中)



13 国語科指導 7/28・10/2

新学習指導要領を踏まえた「話す・聞くこと」の指導の視点等、大変勉強させていただきました。特に小中合同の研究協議では、9年間を見通して考えることができました。御指導いただきました。ありがとうございます。(旭川市立神楽小学校 曾根桜桃)

研修講座
寸描
その3

成果を上げる研修講座
有意義に意欲的な交流が進む

14 社会科指導 7/28・10/8

一つの単元を設定して、導入となる主発問を考える活動が特に有意義でした。他の先生方との交流で、自分の教材観が広がったように感じました。新学習指導要領もわかりやすく解説していただきました。大変ありがとうございました。(和寒町立和寒中学校 今村恭子)



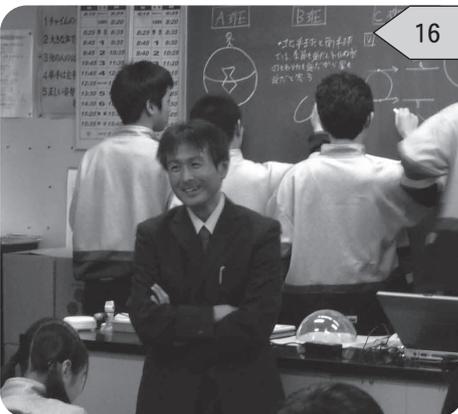
開国から日本がどのように変わったのか考えを発表している様子 (永山小)



大逆事件について生徒一人一人が考えをまとめている様子 (永山南中)



台場の地層についてでき方を学習している様子 (新町小)



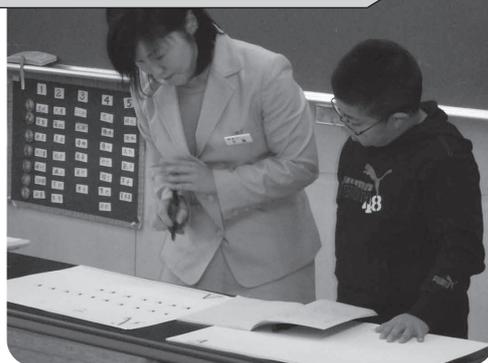
北半球と南半球での星の見え方について説明している様子 (北都中)

16 理科指導 7/29・10/15

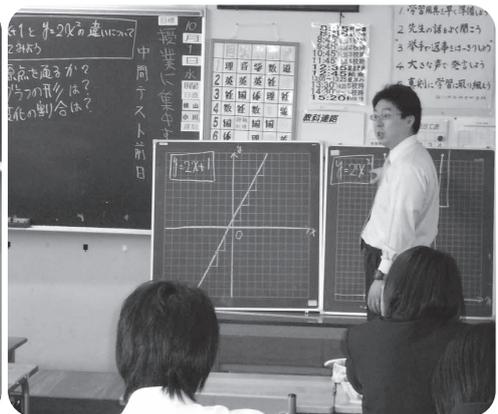
理科指導の中で、プレコンセンションという存在があるということを知りました。また、いかに具体物を通して「視覚的に捉えさせることができるか」が大切だと学びました。今後も、研修を重ね、分ける授業研究に励みたいと思います。(旭川市立永山西小学校 小林弘明)

15 算数・数学科指導 7/29・10/1

講義では、子ども自身が課題解決をする上で自分なりに工夫することの必要性や、いま求められている算数・数学の現状に対してどのような教科指導が生徒に必要とされているかを学ぶことができました。ありがとうございました。(旭川市立東陽中学校 坂本知里)



あまりのあるわり算について児童の考えを聞いている様子 (緑新小)



2次関数のグラフについて説明をしている様子 (神居中)



19 外国語科（英語）指導 8/1・10/16

生徒一人一人の暗唱を聞いてアドバイスをしている様子（神居中）

単語の概念を絵で表す演習では、久しぶりに頭を酷使しました。また、秦先生の豊富なデータによる、これからの英語科の課題と改善策についての分析は、大変貴重な資料です。しっかりと再研修して新たな授業改善に努めたいと思います。ありがとうございます。
（美瑛町立美馬牛中学校 虻川真樹子）



26 校内研修 10/22

児童の考えにじっくりと耳を傾けている様子（東五条小）

この度は、校内研修の推進について、資料をもとに分かりやすく説明していただきありがとうございます。また、私の素朴な疑問にも丁寧なご助言をいただくことができました。学んだことを今後自分の力としていくような努力します。

（古冠中央小学校 谷口 収）



職場体験で学んだことをわかりやすく発表している様子（比布中）

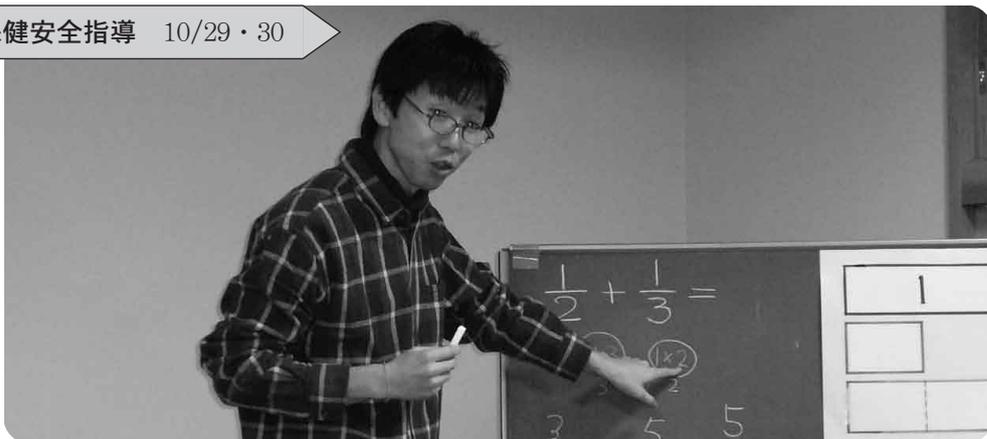


27 総合的な学習の時間 10/22・23

様々なゲームを取り入れながら英語を楽しく学んでいる様子（宇園別小）

各校の実践、たいへん参考になりました。数年後には、ぐっと時間も減るこの総合的な学習の時間を、より一層充実したものとなるよう職員自身はその内容を楽しめるものとし、協力しながら進めたいかなければならないと思いました。
（旭川市立東陽中学校 児玉考弘）

29 保健安全指導 10/29・30



一人一人のレベルに合わせた課題を提示して授業をしている様子（青雲小）

精神科の治療事例、子どもの心の問題に関する提言、不登校学級の授業など有意義な時間を過ごさせていただきました。今後の実践でも、生徒が安心して自分のよさや可能性を發揮できるように環境づくりに努めたいと考えております。

（旭川市立常盤中学校 青山理加子）



30 情報教育 11/ 5

情報化社会と呼ばれる現代において、インターネットがかかえる深刻な問題について、現場の先生方と交流ができ、有意義な時間になりました。この研修で得た知識を自分だけのものにするのではなく職場の同僚に還元していきたいです。
(上川町立上川中学校 橋場裕輔)

疑似メールでモラルについて熱心に学習している様子 (旭川中)

31 生徒指導 11/ 5・7

(旭川市立永山南中学校 猪股さやか)

一日目の研修では、生徒指導の理論や現場での具体的な経験など、今後の参考になるお話をいただきました。また、二日目の授業実践からは、普段から生徒と信頼関係を築き、生徒指導の充実を図ることの大切さを学びました。講師の先生方には大変感謝しております。ありがとうございます。



ビーバーがダムをつくる様子について児童一人一人が調べ学習をしている様子 (新町小)



グループの中で意見をまとめて発表するための準備をしている様子 (愛宕中)



「車いすのJリーガー」を読んで困難なこととは何かを考えている様子 (台場小)



「生命の尊重」について保護者からの手紙を読みながら考えている様子 (神居東中)

32 道徳教育 11/12・13

新学習指導要領下での道徳教育について、道徳の時間のあり方などを学ぶことができ大変有意義な二日間でした。小・中両方の授業を見させていただけたことも刺激になりました。道徳の時間で子どもを変えるんだという力をいただきました。
(南富良野町立南富良野中学校 松尾 聡)

33 国際理解教育 12/25

(旭川市立神居東中学校 深澤 徹)

国際理解教育の意義と教育への位置付けの工夫についての講義や、生徒の発達段階毎の国際理解教育の具体目標の検証、更にコミュニケーション能力を高めるためのワークショップなど、すぐに活用できる大変有意義な研修でした。豊富な資料でわかりやすくご指導いただき大変ありがとうございました。



グループに分かれて授業プランを立てている様子

(11)

34 ミニ道研学校経営マネジメント 1/8・9



特色ある学校づくりと教育課程経営の課題について話し合いをしている様子

学校組織マネジメントの手順がわかり、すぐ活用することのできる講座でした。内部・外部の強みを生かし、自校の課題解決のためのミッションづくりになさそく取り組もうと思います。豊富な資料とご指導ありがとうございます。

(東川町立東川第一小学校 田中 緑)

演習では、同校種によるグループのため、似たような課題を互いに共有することができました。また、付箋に書くことにより改めて自校を見つめ直す良い機会となりました。今後、演習で得た成果物を生かせるよう実践をしていきます。

(美瑛町立美馬牛小学校 長岡勇樹)

35 書に親しもう 1/14

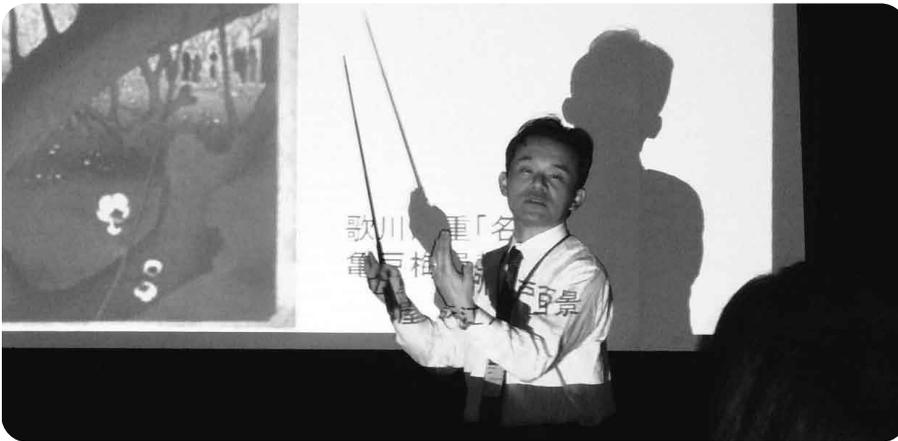


文字のイメージを生かしながら作品制作を行っている様子

技術にとらわれず、自分の方法で「楽しんで表すこと」の大切さを実感しました。今後は教えていただいたことを生かし、子どもたちにも楽しさを感じさせる授業づくりに取り組んでいきたいと思いません。ご指導ありがとうございます。

(旭川市立正和小学校 宮田 華)

36 美術鑑賞 1/14



風景画の魅力について説明をしている様子 (旭川美術館)

美術館の役割や活動についての講義を大変興味深く聞かせていただきました。風景画の見方についても、視点を与えることでイメージのふくらませ方がずいぶん変えられる等、鑑賞の奥深さを体験することができ心豊かな研修となりました。

(旭川市立正和小学校 塚崎智子)

出前講座

特別支援 (中央地区) 10/15
(明星中) 12/3
(士別南中) 12/5



個別支援計画について実例を交えて説明している様子 (東川町農村環境改善センター)



不登校生徒の対応について説明をしている様子 (士別南中)

「不登校」についての講演内容でした。理論研修というよりも、現場の現状や生徒の実態に即したお話でしたので、すぐに「役に立つ」と大変好評でした。ご講演いただいた村田昌俊先生、本当にありがとうございます。

(士別市立士別南中学校 高橋章友)



出前講座

小学校英語活動

(忠和小) 11/12 (山部小) 11/17
(末広小) 1/21 (名寄南小) 2/4

具体的な講話と実践的なアクティビティーを体験し、移行期に向けて不安が減りました。出前講座により本校教職員が同じ研修を受けられ、今後同じスタンスで外国語活動の準備を進めることができます。ご指導ありがとうございました。
(旭川市立忠和小学校 村上政義)

小学校英語活動の理論研修とアクティビティーに熱心に取り組む様子 (忠和小)

出前講座 生徒指導 (上富良野西小) 11/25



今回の研修で、構成的グループエンカウターを活用した学級づくりの有効性を実感しました。学習したことを今後の学級経営に活かしていきたいと思えます。実技指導を取り入れ、わかりやすくご指導いただきありがとうございます。
(上富良野町立上富良野西小学校 小原広士)

構成的グループエンカウターのエクササイズに熱心に取り組む様子 (上富良野西小)

心に残る授業

その57

「子どもの目の高さに」

上富良野町立

上富良野西小学校長

村田 俊 昭



新卒三年を終え、当時上川管内で唯一のへき地四級地の小学校に異動した。自分自身の希望もあったが、小学校の教師を続けていくのなら、早く全学年を経験し、児童の発達段階とともに、すべての学習内容を把握し、系統性や段階をふまえた指導を身に付けた方がよい。そのためにも、複式校に早めに勤務した方がよいと先輩教師からアドバイスがあったからだ。

赴任したその学校では、三・四年生三名の担任となり、最初の授業は、少し自信があった算数とした。初めての学年別指導ということで、必要以上に教材研究に努め、練習問題用のプリントも数多く用意した。直接指導・間接指導、わたり、ずらし、学年別授業に関する指導法も理解し、意欲的な子どもの姿を思い浮かべ準備を進めた。三名の子どもの机の前に立ち、二年生を行ったり来たりして、話し合ったり、説明を加えたり、その時の授業は計画通り進めていった。間接指導中であつても常に声をかけ、練習問題が終わるやいなや用意していたプリントを配布するなど、学年別指導ゆえに起こりうる間のある時間がないよう努めていた。四十五分間、子どもたちは休むことなく授業に集中していたと思ひ、

充実感と満足感をもちながら「今日の算数の授業はどうでした？」と子どもたちに聞くと、予想もしていなかった言葉が返ってきた。

「村田先生の話を聞くと、でっかいのでずうっと首を上げていたから首が疲れました。」

「終わっても終わっても、次の問題が出てくるので疲れました。」

子どもたちは集中していたのではなく、自分本位の学習を進めてしまったのかと打ちのめされた思いであった。文字通りの子どもの目の高さ、そして、子どもの心の目の高さに立ち学習を進めることの大切さを深く心に刻みつけることのできた授業であった。

今回の学習指導要領の改訂には、「知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視」の考えがある。その育成のためにも、授業中での教師と子どもとのリズム、バランスのとれた指導法が重要であると、その時の授業を思い起こしながら考えている。

【編集後記】

研修センターだより「教育研修」一〇一号をお届けいたします。今年もセンターだよりをご愛読いただき誠にありがとうございました。皆様におかれましては年度末のお忙しい時期をお過ごしのことと存じます。くれぐれもお健康に留意されますことをご祈念申し上げます。
(担当 坂田)

発行日 平成二十一年三月一日
発行 上川教育研修センター
〒077-0100 旭川市六条通四丁目
旭川市六条通四丁目
電話(0114)241-2501
安藤 達雄
責任者 東信印刷株式会社
印刷所

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。